

2018年度上智大学グリーフケア研究所
グリーフケア人材養成講座グリーフケア人材養成課程（東京・大阪）
自己点検評価報告書

(1) 理念・目的

上智大学グリーフケア研究所は、グリーフケア並びにスピリチュアルケアにかかる学術研究とグリーフケア、スピリチュアルケアに携わる人材を養成するとともに、我が国におけるグリーフケアの理解、啓発を行い、グリーフを抱える者「悲嘆者」がケアされる健全な社会の構築に貢献することを目的として2009年4月に設立された。

本研究所は、グリーフケアや死生学に関する研究、研究会の開催、諸文献の収集及び紀要、著作などの刊行を行うとともに、「グリーフケア人材養成講座」を、関西では2009年度から（大阪サテライトキャンパスでは2012年から）、東京四谷キャンパスでは2014年度から開講している。2018年度末にはグリーフケア人材養成講座は開設より丸10周年を迎えた。

2017年度には全面改訂された新しい課程・カリキュラムがスタートし、2018年度末には新制度での初めての修了生を輩出した。東京・大阪合わせて84名の修了生全員が総合審査に合格し、本学独自資格である「臨床傾聴士」の資格を付与された。

上智大学の教育精神は“Men and Women for Others, with Others - 他者のために他者とともに生きる者を育成する”ことにあり、グリーフケア研究所の諸活動のうち最も重要であるグリーフケア人材養成講座も「他者のために、他者とともに生きる者を育成する」ことを目的としており、大学の教育精神に沿った教育活動であると確信している。

また、本研究所は、「上智大学グリーフケア研究所規程」により、その目的及び活動を定めるとともに、「上智大学グリーフケア研究所人材養成講座細則」により、開講するグリーフケア人材養成講座の課程等の細目を定めている。さらに、グリーフケア人材養成課程（2年制）において付与することができる本学の独自資格である「臨床傾聴士」について、「上智大学グリーフケア研究所臨床傾聴士に関する内規」並びに「上智大学グリーフケア研究所認定臨床傾聴士行動規範」を定め、大学のホームページで公表しているところである。

(2) 内部質保証

グリーフケア研究所は、授業期間を中心として、原則として毎月1回、正所員からなる運営委員会を開催し、研究所の運営にかかる重要事項について審議している。2018年度に運営委員会は5・8・10・2月を除き年8回開催した。

この会議では、たとえば本研究所が開講するグリーフケア人材養成講座について言えば、同講座の課程・カリキュラム、担当講師の人事、受講生の選抜方法、選抜日程、受講料の設定、講座の開講日程、その他、同講座の運営にかかる重要事項について審議・報告を行っている。また、グリーフケア人材養成講座の課程・カリキュラムの編成、入試実施方法、

受講生が作成する論文等への倫理指導などについては、必要の都度、運営委員会の下に小委員会を設置し、個別的具体的な審議、検討を行っているところである。

(3) 教育研究組織

グリーンケア研究所員は、本研究所および大学院実践宗教学研究科死生学専攻を本務とする教員に加えて、神学部、文学部哲学科、総合人間科学部などに所属する専任教員を正所員として本研究所の教育研究活動について、幅広い意見を得るような体制を構築している。また、数年毎に新たな正所員を迎えることで、グリーンケア人材養成講座の運営について新たな意見やアイデアを取り入れることができるようにしている。

2018年度には新任のグリーンケア研究所教員が年度途中で1名増員となり、正所員は14名となった。

(4) 教育課程・学習成果

グリーンケア研究所が開講するグリーンケア人材養成講座では、2017年度に新設した3つの課程に共通する「養成する人材像」、各課程開設の「目的」、また、各課程の「修了認定の方針」、「教育課程編成・実施の方針」及び「受講生の受入れの方針」の3つのポリシーを、上智大学のホームページ、グリーンケア人材養成講座の出願要項及び履修要覧に明示している。

グリーンケア人材養成講座は、日本スピリチュアルケア学会が認定する「スピリチュアルケア師」の養成プログラムである。したがって、同講座は、同学会が定める基礎並びに専門の2つの教育領域において、同学会の基準に基づいた教育課程を編成しているだけでなく、本研究所がケア者の養成に必要と考える教育課程を編成しており、開講科目においても開講時間数においても、同学会の基準を大幅に上回っている。

グリーンケア人材養成講座の成績評価及び単位認定は、授業への出席に加え、リアクションペーパー、学期末テスト及び学期末レポートなど、上智大学の正規課程と同様の評価・単位認定方法とすることで、その適切性を確保している。

また、各学期末において、受講生に対して授業評価アンケートを実施することにより、各授業科目の授業内容の適切性の確保と改善に努めている。

2017年4月に「グリーンケア人材養成課程（東京）」には61名が入学し、途中仕事や家庭の事情等で休学・退学する者が出たが、2018年度末には53名が修了した。

一方、「グリーンケア人材養成課程（大阪）」には36名が入学し、途中仕事や家庭の事情等で休学・退学する者が出たが、2018年度末には31名が修了した。

入学者数に対する修了者数の割合は東京・大阪でそれぞれ87%と86%だったが、社会人向けの講座であり、最短期間(2年間)での修了ということを考えるとかなり高い数字であると考えられる。

また、東京・大阪の修了生84名全員が総合審査に合格し、本学独自資格である「臨床傾

聴士」を付与された。

なお、修了生のうち東京 18 名・大阪 12 名が次の課程である「資格認定課程（1 年制）」に進み、日本スピリチュアルケア学会認定の「スピリチュアルケア師（認定）」を目指し研鑽を積んでいるところである。

(5) 受講生の受け入れ

グリーンケア研究所が開講するグリーンケア人材養成講座では、同講座が養成する「人材像」、課程開設の「目的」、また、「修了認定の方針」、「教育課程編成・実施の方針」及び「受講生の受入れの方針」の 3 つのポリシーを、上智大学のホームページ、グリーンケア人材養成講座の出願要項等に明示している。

そして、出願者に対する出願書類選考及び面接選考では、「受講生の受入れの方針」に基づいて評価し、合否選考を行っている。

2018 年度のグリーンケア人材養成課程（東京）の出願者は定員 60 名に対し 133 名と定員の 2 倍を上回る出願があったが、64 名を合格とし、入学者は 64 名だった。入学者数は定員に対して適正な受講生数としており、受講生数の管理は適正であり、競争率も 2 倍強と社会人向けの講座としては非常に高く、受講生の質も担保されていると言える。

一方、グリーンケア人材養成課程（大阪の）の出願者は定員 36 名に対し 61 名とこちらも非常に多く、40 名を合格とし、入学者は 39 名だった。入学者数は定員に対して適正な受講生数としており、受講生数の管理は適正であり、競争率も 1.5 倍程度と高く、受講生の質も担保されていると言える。

また、年に 1 回、グリーンケア人材養成講座の修了生に対してアンケートを実施し、受講した課程・コースについての意見・評価を聴くことで、同講座の教育課程の改善の一助としているところである。

(6) 教員・教員組織

グリーンケア研究所が開講するグリーンケア人材養成講座の教員配置については、毎年度、グリーンケア研究所運営委員会において審議した上で、人事諸手続を進めている。特に、新規の教員については、グリーンケア、スピリチュアルケア領域での教育研究業績、または、臨床現場での活動実績など、同講座の担当教員としての適切性について慎重に検討しているところである。

また、同講座において最も重要な演習・実習関係を担当する科目については、基本的に、日本スピリチュアルケア学会が認定する「スピリチュアルケア師」の指導資格を有する者を充てるとともに、東京・大阪それぞれで年に数回、本務教員と兼務教員の合同で、授業内容の改善のための研修会を開催している。

(7) 社会連携・社会貢献

グリーフケア研究所は、グリーフケア並びにスピリチュアルケアにかかる学術研究を行うことを目的とするだけでなく、学術研究の成果を踏まえて、グリーフケア、スピリチュアルケアに携わる人材を養成するとともに、我が国におけるグリーフケアの理解、啓発を行い、グリーフを抱える者「悲嘆者」がケアされる健全な社会の構築に貢献することを目的として設立したものである。

本研究所が開講するグリーフケア人材養成講座は、東京・四谷キャンパスだけでなく、上智大学大阪サテライトキャンパスでも開講しているが、これは、本研究所の設立の経緯とともに、本研究所のグリーフケア活動が関西圏で生まれたことを重要視し、関西圏におけるグリーフケアの発展に貢献することを目的とするところである。

(8) 運営・財務

グリーフケア人材養成講座の運営にあたっては、グリーフケア、スピリチュアルケアの社会への浸透とケア人材を育成することに賛同をいただく多くの企業・団体からのご寄付や助成によるご支援をいただいている。このため、本研究所は、グリーフケア人材養成講座の運営にかかる収入及び支出を適切に管理し、半期毎、ないし、年度単位で、ご寄付や助成をいただいた企業・団体に収支報告および事業報告を行っており、さらに、翌年度の事業計画・収支計画なども都度提出している。

また、本研究所及びグリーフケア人材養成講座の運営に関する重要事項については、学校法人上智学院の理事並びに上智大学の学長・副学長に報告や相談を行うなど、運営の適切性の確保に努めている。

(9) 改善に向けての取り組み

① 各種情報の公開

現在、グリーフケア人材養成講座に係る基本的な情報（出願者数・合格者数・競争倍率・入学者数・在籍者数・修了者数等）はグリーフケア研究所のホームページその他では公表していないが、これらの情報は受講希望者にとっては知りたい情報の一つでもあるため、一日も早い公表が必要と考える。実際、本報告書には今回よりそれらの情報が記載されたため、まもなくグリーフケア研究所のホームページでも公表されることになるが、報告書を見ないとわからないのはあまりにも不親切なため、まずはこの範囲の情報をわかりやすい形に加工して公表して行きたい。

上智学院では数年前に **Factbook** に学内の各種データを 10 年間の経年変化をグラフ化して公表しているが、人材養成課程は始まってから 2 年間を経過した段階なので、すぐに **Factbook** のような情報を出すことはできないが、データが蓄積された数年後にはそのような形での公表ができれば良いと考えている。

また、毎年各学期に実施されている受講生への授業評価アンケートの結果についても

授業や個人等が特定できないような処理を施した上で公表していくことも検討したい。

② 演習方法の改善

グリーンケア人材養成講座において、「演習」はグリーンケア・スピリチュアルケア人材を養成する上で、最も重要な科目の一つである。演習のやり方については、研究所設立の10年以上前から同じ方法が今も行われているが、この方法は優れた点も多いが、演習の中で問題ありと見える場面も少なからず見受けられている。ここ数年、この方法に起因すると思われる問題が少しずつではあるが顕在化してきているため、一部教員からはこの方法を見直す時期に来ているのではないかとの意見が少なからずある。これについては、本研究所としても認識しているため、なるべく早い時期にグリーンケア運営委員会の下に「演習改善小委員会（仮称）」を立ち上げて検討を開始し、数年のうちに新しい演習方法について提言を行いたいと考えている。検討の最初の段階としては、現在の演習の現状把握・問題点等の洗い出しから始める予定である。

以 上